

(国) 福島大学

人文社会学群
行政政策学類

キャリア教養学科 (米沢興譲館高校出身)

Q1.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

4年制大学に進学することは高校時代から考えていました。しかし一般入試で志望大学に入学することはできず、編入を前提に桜の聖母短大を受験しました。高校のときとは全く違った専攻を考えていましたが、学際的な学びができる本学で様々なことを学ぶうちに自分が本当に興味のある分野を見つけもっと深く学びたいと思ったため、より編入に対する思いが強くなりました。

Q2.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期から進路別の授業があったと思います。編入とはどういったものなのかという講義から始まり、大学研究などを行いました。2年生では毎回異なる専門分野の講義、編入対策の英語や小論文の授業を受けました。

Q3. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

英語については1年生から編入者向けの授業があったのでその授業を受けていました。また、私は英検やTOEICなどを数回受検したのでその対策についても英語担当の先生方に指導をお願いしました。小論文については2年生になると同時に個人的に先生方に添削をお願いしました。

Q4.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

私は外部の方や他大学の先生と多く関わる機会があったので、そういった方々と意見交換をしたりアドバイスをいただいたりなどより多くの人と関わることができ、結果的に小論文や面接の部分でその経験が活かされたのではと思っています。また、英語は1年生のときから英字新聞を英語で要約し直す学習を、小論文は2年生になると同時に過去問に取り組むだけでなく多くの本を読み、日ごろのニュースを見て自分の意見を持つようにするなどして対策をしました。

Q5.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

聖母では法学、心理学、経済学など幅広く様々な分野を学ぶことができ、自分が本当に興味のある分野を見つけました。また、学外での活動などもすすめてくださる先生方がいらっしゃり視野を広げる機会にもなりました。編入に対する意志を持ち続けられたのは、やりたいことができる聖母での学びがあってこそだったと思っています。

Q6.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

学内での学びだけでなく、学外でも実践的に学ぶことでコミュニケーション力や慶弔力を養うことができたのではないかと感じています。これらは編入のためだけではなく、いずれ社会人になる私たちにとって重要なことだと思います。また多くの人と関わることで目先だけでなく、長い将来で大切になる経験ができたと思っています。

Q7.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを書ける範囲で教えてください。

- ① 面接だけの試験だったので、どれだけ自分を売り込めるかが重要でしたが、それほど緊張せずにできたと思います。
- ② 私は山形県出身なので福島の土地に馴染めるかが不安でしたが、ゼミをはじめ多くの友達ができ楽しく学生生活を送ることができました。
- ③ 自分にできることはやってきたので試験で実力をすべて出すだけだという気持ちでした。
- ④ 合格した大学は第一志望ではなかったのですが、自分が学びたいことを学べるので素直に嬉しかったです。

Q8.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

編入は一般入試とは違って、どれだけその大学で学びたいかという強い意志を見せることが重要になります。また、倍率も一般入試に比べて高いので個性を売り込まなければならないと思います。こういったものはすぐに身につくものではないので、2年間という短い短大生活で勉強だけでなくいろんなことにチャレンジしてみることをおすすめします。編入試験ではさまざまな経験をしている人のほうが有利だと感じました。そして何よりも自分のやりたいことを明確にしなければ編入する意味がありません。そのためにも聖母での様々な授業をたくさん受け、将来の自分につなげてみてください。